

ワクチンで予防できる子どもの病気

三種混合（DPT）で予防します

【ジフテリア】

のどについたジフテリア菌が増えて、炎症を起こす病気です。38度の熱と、犬の遠吠えのような咳が特徴で、重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし死亡することもあります。

【百日せき】

鼻水、軽い咳から始まり、次第に「コンコン」と連続した咳が長く続く。急に咳を吸い込むので笛を吹くような音「ウープ」をともなう呼吸困難、チアノーゼ、けいれん等起こる病気です。乳児では、無呼吸状態になることもあります。肺炎、脳炎を併発することもあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌（はしょうふうきん）が傷口から体に進入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると全身の筋肉麻痺や強いけいれんで呼吸ができなくなったりします。

BCGワクチンで予防します

【結核】

咳や発熱が続く病気ですが、子供の場合、せきなどの症状はあまりみられません。赤ちゃんの場合は、粟粒結核（ぞくりゅうけつかく）や髄膜炎（ずいまくえん）など重症になりやすく、後遺症（こういしょう）が残ったり、死亡することもあります。ポリオワクチンで予防します。

ポリオワクチンで予防します

【ポリオ】

小児麻痺とも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、症状がでる場合は、熱が下がった後に片側の手足に弛緩性（しかんせい）麻痺（まひ）を生じます。

麻疹・風疹（MR）ワクチンで予防します

【麻疹 はしか】

熱、鼻水、咳などの症状ではじまり、熱はいったん下がった後、再び上がります。特有の赤い発疹が顔から全身に広がります。子供では重い病気、かかると肺炎や気管支炎、脳炎も合併することもあり、死亡例もあります。

【風疹（三日ばしか）】

発熱、赤い発疹、首のリンパ節はれの3症状が特徴です。熱もでないことも多く、かぜに似た症状で、ふつうは3日程度で治ります。重症になると脳炎や血小板（けっしょうばん）減少性（げんしょうせい）紫斑病（しばんびょう）になることもあります。

日本脳炎ワクチンで予防します

【日本脳炎】

感染したブタから蚊がウイルスを運んできて感染し、脳炎を起こす病気です。ヒトからヒトへはうつりません。かかっても大多数は無症状ですが、脳炎になると高熱、けいれん、意識障害がでます。治療が難しく、死亡や重い後遺症の危険性があります。

小児用肺炎菌ワクチンで予防します

【肺炎球菌感染症】

肺炎球菌による病気、脳を包む髄膜で炎症を起こす細菌性髄膜炎（さいきんせいずいまくえん）や菌血症（きんせつしょう）、肺炎などをおこします。肺炎などを起こします。髄膜炎は早期診断が難しいため重症になりやすく、死亡や重い後遺症の残る例もあります。菌血症は髄膜炎の前段階となることがあります。

ヒブワクチンで予防します

【H i b（インフルエンザ菌b型）感染症】

インフルエンザ菌b型という細菌（インフルエンザワクチンとはまったく別のもの）による病気、細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎（こうとうがいえん）、肺炎などを起こします。5才までにかかることの多い病気です。髄膜炎は水痘ワクチンで予防します。

水痘ワクチンで予防します

【水痘（みずぼうそう）】

強いかゆみのある赤い水疱をともなった発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

おたふくかぜワクチンで予防します

【おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）】

発熱とともに片方または両方の唾液腺（*耳の下からあごにかけての部分）、特に耳下腺がはれる病気です。ふつう1~2週間で治りますが、無菌性髄膜炎や脳炎を合併することもあります。治らない難聴（片側）になったりする場合もあります。

インフルエンザワクチンで予防します

【インフルエンザ】

発熱や悪寒、頭痛、関節痛などの全身症状がみられる病気です。赤ちゃんがかかると気管支炎や中耳炎、肺炎を合併することもあります。脳症を起こすと死亡や後遺症の危険性が高くなります。

ロタウイルスワクチンで予防します

【ロタウイルス胃腸炎】

白っぽい水のような激しい下痢や嘔吐（おうと）によって脱水をおこしやすく、けいれんがみられることもある。まれに脳や腎臓などに影響を及ぼすこともあります。